

LF用デジタルRF電流計 製作例

検出部 蛇の目基板 部品配置例



基板半田面に ダイオード1本配置

検波部基板を 取手に内蔵配置した 製作例

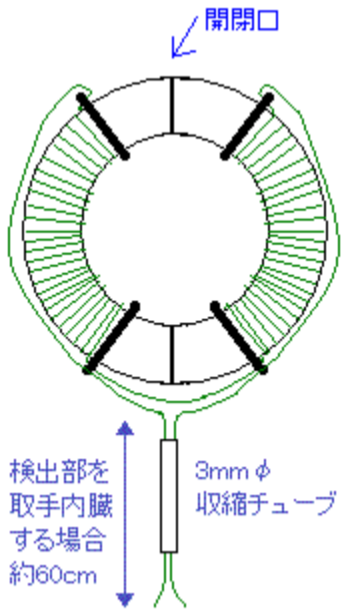
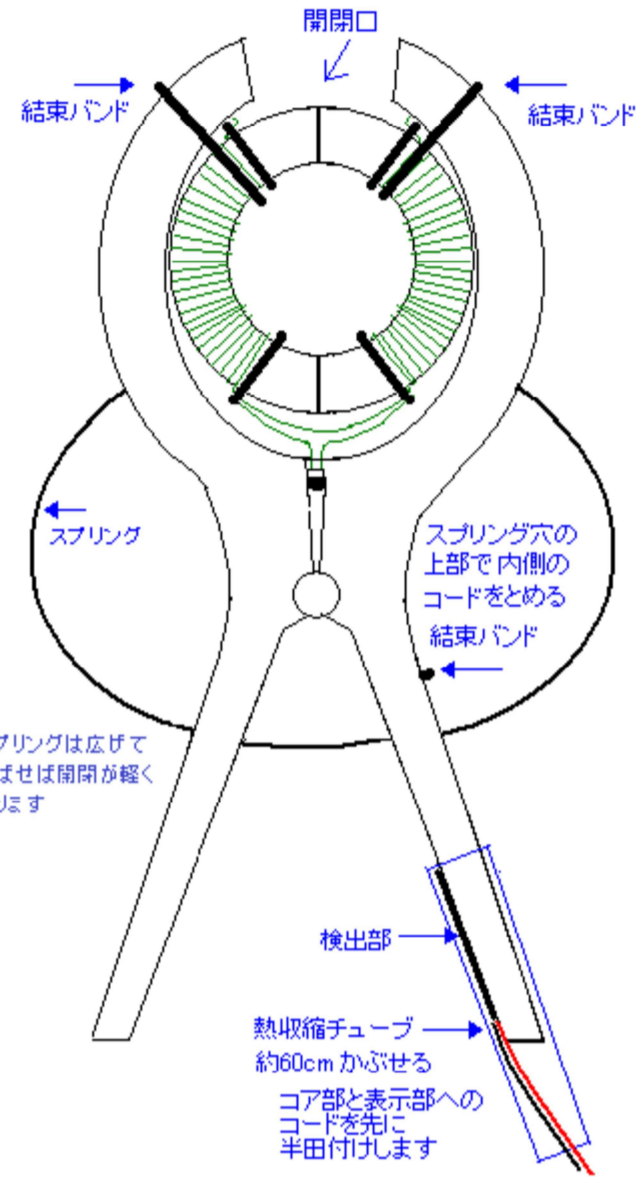
① LF用クランプコアの巻き方例の通り、ナイロンクランプコアに50回巻きして電流トランスを作ります
検出部へのコードに、右図のように、3mmφの収縮チューブを通します

② 特大洗濯バサミ(ビックピンチ)に右図のようにはさんで、開閉口に近い方で結束バンドで固定します
(検出部へのコードは内側のすき間から取手の方に通しておきます)

③ 蛇の目基板で作った検出部にコアからの線と、表示部への赤黒平行線を、それぞれ半田付けします
コアからの線は、検波部製作例の写真のように、スプリングの間を通して検波部基板につなぎ、開閉がスムーズになるよう収めます、スプリング穴の上部でコードを固定します

④ 透明の熱収縮チューブを、赤黒平行線側から通して、取手の内側に収めた検波部基板ごと、かぶせます
強力ドライヤーなどの熱風で、収縮固定します

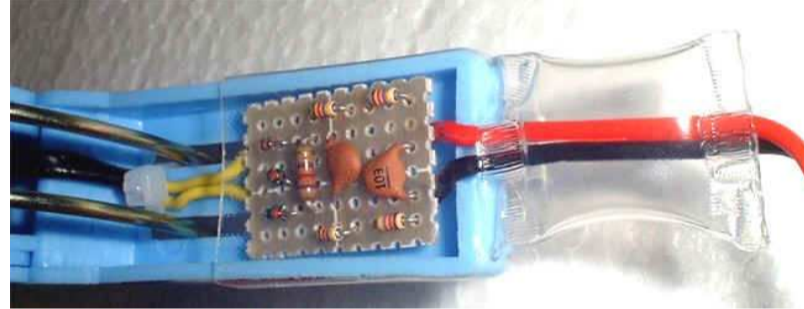
⑤ 赤黒平行線の先に、ミノムシクリップを半田付けします



検波部製作例



検波部製作例拡大写真



検波部基板をコード中間に配置した 製作例



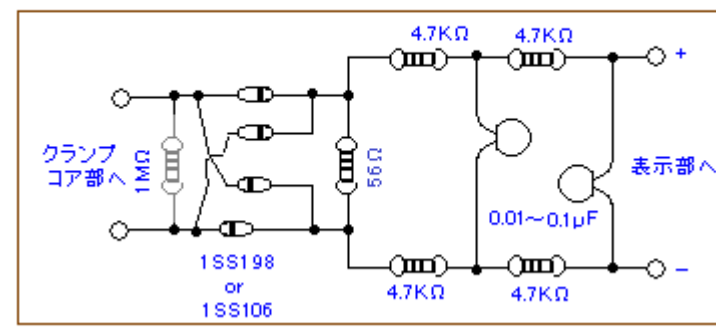
検波部製作例拡大写真



株式会社 大進無線
〒410-0022 沼津市大岡 2223-14
TEL 055-925-4961 FAX 055-925-4962

URL <http://www.ddd-daishin.co.jp/>
E-mail info@ddd-daishin.co.jp

LF : 検波、平滑部 構成図



高周波電流=表示電圧 (電流:電圧比は1:1)
1MΩは、空中バラック配線で組む場合の、機械的補強用です
基板などに組む場合は、不要です

測定周波数範囲: 135kHz~4MHz
測定電流範囲: 50mA~2A(短時間なら4A)
測定誤差: ±20%程

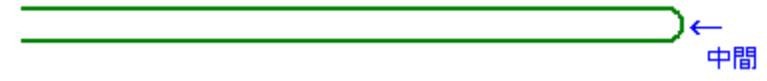
LF用RF電流計 パーツセット部品一式



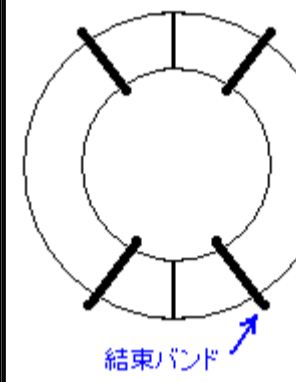
LF用クランプコアの巻き方例

クランプコアにETFE電線を50回巻きします(コア内通過数) (ナイロンクランプの上に巻きます)

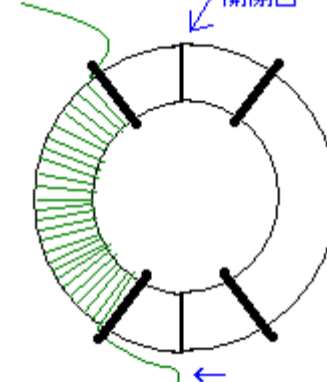
ETFE電線は、半分折り曲げて、中間にのしをしておきます



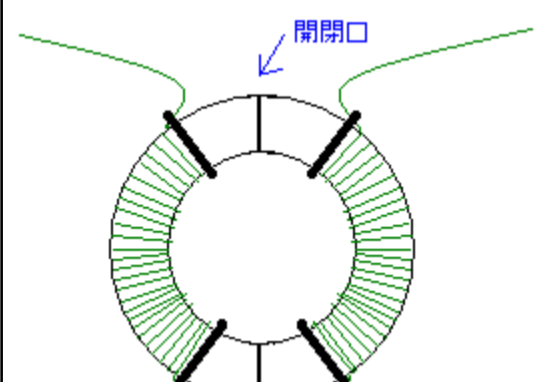
① クランプコアに結束バンドを4本仮止めします



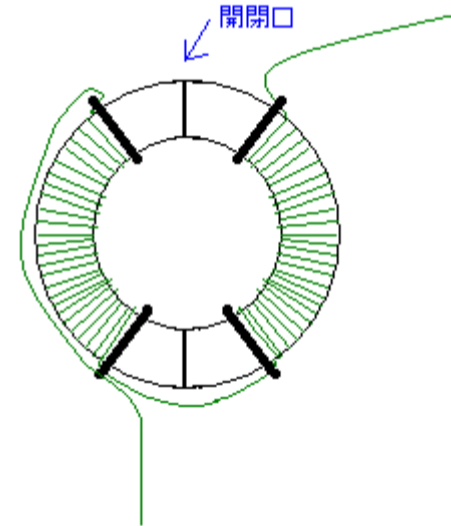
② ETFE電線の中間をコアの図のように下側に合わせ、結束バンドに通して、半分のコアに25回巻きします(コア内通過数)



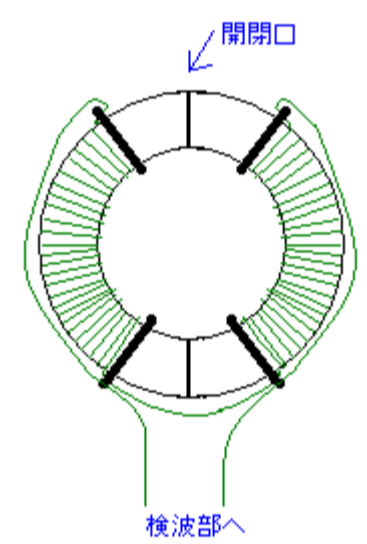
③ 残り半分のコアにも25回巻きします
図のように、巻き方向は同じにします
合計50回巻きとなります(コア内通過数)なるべく等間隔に巻きます



④ ETFE電線の端は、巻き線の外側(上側)を折り返し、図の下側の結束バンドに通します
両端とも同じようにします



⑤ 完成例



電流トランスの製作 完成例

ナイロンクランプの上から50回巻、開閉口のナイロンの突起部分はカットしました



テスターに接続した例

